

美しい山形・最上川フォーラム 令和5年度（第22回）通常総会議事録

1 日 時 令和5年7月24日（月）13時30分から14時45分まで

2 場 所 山形県生涯学習センター 第1研修室

3 出席者 出席 計51名（司会除く、別紙名簿のとおり）

4 議事の経過

13時30分、司会を務める一般財団法人山形県理化学分析センター松本義文さんが開会を宣言した。

柴田洋雄会長のあいさつ（要旨）

- ・出席者への謝辞
- ・第22回総会ということで、設立後22年目を迎えた。
- ・国連が提唱する持続可能な社会の実現には、当フォーラムがやってきたものが大分入ってる。フォーラムの活動を国連の17の活動にどう位置づけるか、わかりやすく紹介していきたい。
- ・予算や事業など議案を皆様に協議していただく。積極的なご参加をお願いします。

知事挨拶（山形県防災くらし安心部 柴崎涉次長が代読披露）

美しい山形・最上川フォーラムフォーラムが設立されて、今年で22年目を迎えました。この間、「美しい山形・最上川100年プラン」のもと、母なる川「最上川」を美しい山形づくりのシンボルに掲げ、水環境の保全や川が育む文化の継承、さらには最上川を活用した地域活性化の取組みを県全域で活発に進められてきました。

会員の皆様におかれましては、豊かな自然や文化を後世に引き継ぐために日々御尽力いただいております。深く敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

また、今般、フォーラムの長年にわたる御尽力・御功績が認められ、公益社団法人日本河川協会から栄えある「河川功労者表彰」を受賞されましたことに対し、心よりお祝い申し上げます。

さて、原油価格・物価高騰や頻発・激甚化する自然災害など、私たちを取り巻く社会経済環境は大きく変化しております。加えてコロナ禍の間に社会全体のデジタル化が加速・進展いたしました。このような時代の潮流の中、環境保全、文化振興、地域経済の活性化など、本県の魅力や価値を活かしながら多角的に展開するフォーラムの取組みは、県の基本目標である「人と自然がいきいきと調和し、真の豊かさや幸せを実感できる山形」の実現に資するものであり、また、SDGsが掲げる目標の達成にも貢献するものであります。

今年5月には、新型コロナが5類に移行され、コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進んでおります。交流人口の一層の拡大が期待されるこの機を捉え、山形の美しさや魅力をしっかりアピールしてまいりたいと考えておりますので、引き続き皆様の御理解と御協力をよろしく願いいたします。

結びに、次代を担う子どもたちや若者たちに、この美しい県土を引き継いでいくため、

これからも力強い活動が展開されることを期待いたしますとともに、皆様のますますの御活躍を心から祈念申し上げ、挨拶いたします。

祝電披露

美しい山形・最上川フォーラム令和5年度通常総会のご盛会を心よりお慶び申し上げます

日頃より川辺のクリーンアップ作戦等地域社会に貢献されている事に対し心より敬意を表します

今後益々のご活躍をご祈念申し上げます

山形県議会議長 森田廣

柴田会長が議長席に着き、協議を開始した。

議長が議事録署名人の指名について事務局に提案を求めた。

事務局長が、東北環境開発株式会社山形支店長 五十嵐英紀さんと、公益社団法人山形県観光物産協会常務理事 佐藤勇さんに議事録署名人をお願いすることを提案し、異議なく承認された。

第1号議案 令和4年度事業報告及び収支決算（案）について

事務局長が以下の内容を説明した。

・事業実施結果の総括として、新型コロナウイルス感染症感染拡大が4月から7月にかけては小康状態にあったことから、概ね計画どおりに事業を実施することができたが、8月以降は感染が拡大し、計画していた事業の中止も散見された。

海岸漂着物、海洋プラスチックやマイクロプラスチックの問題に関心が高まるなか、当フォーラムの活動に対する問い合わせや学校や企業、他団体からの連携の申し出等も増えている。

7月21日、22日に開催された「第26回水シンポジウム in やまがた」について、最上川フォーラムの20周年事業に位置づけ、実行委員会に参画するとともに、委託を受けて企画及び運営を担い盛会裏に開催することができた。シンポジウムにおいて、20年にわたる最上川フォーラムの活動経過を発信するとともに、今後の運動の方向性についても多くの示唆を得ることができた。

当フォーラムの運営基盤強化の一環として検討してきた法人移行については、

- ① 会員減少に伴う会費収入の減少に対応し、自主財源を一定程度確保する必要があり収益を計上できるようにすること
 - ② 会長個人に責任が集中する体制を改め、理事会（つまり役員会）による運営体制強化を図り、事業の継続性と発展性、リスク管理を担保すること
 - ③ 任意団体から法人に移行することにより対外的な信用と知名度の向上を図る
- という理由によるもの。

法人設立検討委員会を設置し、10月、11月に開催し、法人移行の妥当性や懸念事項等を中心に協議を行った結果、法人移行は時期尚早との結論に至った。3月に役員会議、運営委員会を開催し、役員会の設置をはじめ運営基盤強化の方策の見直しについて検討を行い、現行体制を維持しつつ、運営基盤の強化に取り組んでいく。

・活動の1つ目の柱、将来を担う世代の育成については、フォーラム設立当初から実施している身近な川や水辺の健康診断、開催件数全国一位を誇るスポGOMI大会が活動の中核をなす。これに海岸漂着物やマイクロプラスチック問題の啓発を組み合わせ実施して

いる。

身近な川や水辺の健康診断は、国土交通省の山形・酒田・新庄の各事務所からの御支援、水質保全関係団体及び企業からの御協力、県環境科学研究センターとの連携により実施してきたところ、感謝申し上げる。前年度に比べ、特に学校関係の申し込みが増え、参加団体数・調査箇所数も増えた。

スポGOMI大会は、平成25年度から海岸漂着物対策の普及啓発の一環として実施しているが、地域や学校、企業からの開催要望が増加しており、普及啓発については学校等での出前講座、様々な施設やイベントでの展示、海と日本プロジェクトへの参加など、あらゆる機会をとらえて取り組んでいる。

事業実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、参加者の安全確保を最優先として、募集及び実施期間の延長や実施方法の見直し、イベントの開催時期を変更するなど、工夫を凝らして取り組んだ結果、予定した成果を概ね上げることができた。それぞれの実績については別紙資料を参照願う。

- ・2つ目の柱、地域の環境保全と安心づくりについては、これもフォーラム設立当初から取り組んでいる美しいやまがたクリーンアップキャンペーンが中核をなす。コロナ禍の中、参加団体数は68で、これまでで最も多い。

令和3年度から、県の海岸漂着物対策推進協議会に最上川フォーラムとして参画するとともに、川ごみ団体との連携として全国川ごみネットワークの川ごみサミットに参加している。

- ・3つ目の柱、環境や文化を地域活性化に活かすについては、夢の桜街道づくりがフォーラム設立以来取り組んでいる活動。要望に基づいて樹木医を派遣し桜の育成に関する調査・指導を行っている。桜守育成講座は緑化推進事業助成金を活用して鶴岡市、金山町で実施した。

桜や水辺の写真を活用した情報発信として、啓発の内容も含めた展示を3月から6月に市町村並びに団体の御協力をいただいで実施している。

- ・地域部会の活動については、身近な川や水辺の健康診断、スポGOMI大会、桜守育成、啓発イベントにおける協力など、活動全般を支えていただいている。

- ・会員拡大の取組みについては、会員金融機関の協力を得て会員募集キャンペーンを実施、個人会員の勧誘に取り組み38人の新規加入をいただいた。

一方、令和2年度年度から実施している、法人会員の年会費増額のお願いについては、厳しい経営環境にもかかわらず、さらに5会員から増額の申し出をいただき、増額会員の累計は58法人。団体となっている。心から感謝申し上げます。

- ・第26回水シンポジウム in やまがたの開催については記載のとおり。

- ・当フォーラムの活動を支援していただいた委託事業、助成事業、寄付金は記載のとおり。関係各位に感謝申し上げます。

- ・収支決算案については、1号議案の2に記載のとおり。

特徴的事項について説明すると、収入の部、会費収入の減額については、法人会費の増額や新規会員拡大の取組みにもかかわらず、退会会員が上回ったことに伴うもの。

県補助金 4,434,048 円は事務局長人件費補助。

最上川上流清掃活動 403,800 円については、山形河川国道事務所からの委託によるもの。積立金 1,650,000 円については、年度当初、会費や助成金等の収入が入ってくるまでの資金不足に対応するために積み立てているもの。

支出の部では、費目全般にわたり経費の節減に努めたところ。積立金については積立金 1,930,000 円の使途についてはただ今申し上げたとおり。

第26回水シンポジウム in やまがた関係の収入支出については、水シンポジウム実行委員会からなかなか入金されず、監査時点において未収入、未払いがあり、いつまでに支払われるか証拠書類を取っておくように指摘を受けた。後日、収入支出を確認してもらった。

議長が各部会長に対し補足説明等を求めたところ、以下の発言があった。

(菅原清流・環境対策部会長) 継続事業はそれなりに展開でき、新しい事業については少し手間取ったりしたが、次の年度に引き継ぐような新しい取り組みができた。

大場健一監事が、監査結果について以下のとおり報告した。

- ・5月に会計監査を実施した。帳簿及び証拠書類その他を精査した結果相違なく、事業の内容について監査した結果適正であったことを認める。

監事の仁科小国町長の代理の佐藤総務企画課長が事務局長の説明のとおり監査時点で未収金、未払いが発生していた。後ほどまた説明をしてもらい確認した。規約上会計は3月31日までとなっているので、会計の持ち方についてさらにご検討願うという事を付け加えた。

議長が指摘のとおり今後はお金の出し入れに注意する旨を述べ、第1号議案の令和4年度事業報告及び収支決算案について出席者に諮ったところ、原案どおり承認された。

第2号議案 令和5年度事業計画及び収支予算(案)について

事務局長が以下の内容を説明した。

- ・新型コロナウイルス感染症防止対策の取扱いが改められたことから平常活動の再開と活発化の動きが急速に広がっている。

最上川フォーラムにおいても、新たな連携の提案が持ち込まれているほか、海と日本プロジェクトやスポGOMI大会など、全国規模の取り組み展開が予定されている。

こうした動きを捉えるとともに、海洋プラスチックやマイクロプラスチックの問題への関心が高まっており、企業や学校におけるSDGsへの取り組みが広がっていることなどを背景として、他団体や、企業、学校、マスメディア等との連携を積極的に進めていく。

また、令和4年度に取りまとめた「新しい活動指針(案)」の推進方向は堅持していくものの、運営基盤強化の一環として検討してきた法人移行については時期尚早との結論に至ったことから、会員拡大や支援獲得並びに収支改善、広報の強化など当面取り組むべき課題を洗い出し、できるところから実行していく。

- ・活動の第一の柱である将来を担う世代の育成については、身近な川や水辺の健康診断、スポGOMI大会、海岸漂着物やマイクロプラスチック問題等の啓発を中心に引き続き取り組んでいく。現時点で予定している活動については別紙資料を参照願う。

- ・第二の柱である地域の環境保全と安心づくりについては、美しいやまがたクリーンアップキャンペーンを引き続き推進すること、散乱ごみの発生抑制対策として普及啓発活動に取り組むとともに、令和3年度から参加している県の海岸漂着物問題推進協議会における発生抑制対策、発生源対策に取り組んでいく。

- ・第三の柱である環境や文化を地域活性化に活かすについては、地域の要望に基づき桜の維持管理活動を支援する。桜や水辺の写真の巡回展示は既にも実施したところ。桜守研修会につきましても、7月に予定していたが、延期としている。

- ・各地域部会の活動としては、これまでと同様、身近な川や水辺の健康診断、スポGOMI大会、桜守育成などの活動に協力いただくほか、地域の実情に応じた独自の創意工夫による活動に対し支援していきたい。

- ・全体事項の中では、役員会の設置や運営基盤の強化のために実施可能な取り組みから

実行していく。

会員募集については、今年度も会員金融機関の御協力のもと4月から7月にかけて会員募集キャンペーンを実施したところ、7月21日現在36個人の新規入会があった。今後も県・市町村の協力を得て会員募集に取り組む。

・公益社団法人日本河川協会令和5年度河川功労者表彰については、当フォーラムが平成13年の設立以来長年にわたり、最上川を美しい県土づくり運動のシンボルに掲げ、川や水辺の健康診断・クリーンアップキャンペーン・スポGOMI大会など様々な活動を継続して行い、河川環境の保全や河川愛護意識の高揚に貢献したとして令和5年6月5日に受賞した。

・今年度予定している委託事業や助成事業、連携事業は記載のとおり。

・令和5年度収支予算案については2号議案の2に記載のとおり。

収入の部、会費収入4,870,000円については、前年度実績を踏まえて積算。

積立金1,930,000円については、年度当初の資金不足に充当するもの。

諸収入のうち団体助成金などについては、今後事業採択及び交付決定がされるにしたがって増額していく見込み。

支出の部、運営費については人件費も含めて前年並みに若干のゆとりを持たせて積算したところであり、それ以外の事業費については、今後の事業採択及び交付決定に伴って補正予算を組んでいくことになる。

積立金の部は、期首残高はフォーラム基盤強化積立金61,172円、積立金が1,930,000円となる。

議長が各部会長に対し補足説明等を求めたところ、以下の発言があった。

(菅原清流・環境対策部会長) 継続すべきものは継続し、毎年何らかの新たな要素、新たなパートナーが入ってくる。変化を恐れずに勢いのある方向に一緒にやっていくようなアプローチが良いのかなと思う。

議長が出席者に諮ったところ、会場から質疑もなく令和5年度事業計画及び収支予算が原案どおり承認された。

第3号議案 役員改選について

事務局長が以下の内容を説明した。

・運営委員の天童市長、遊佐町長、監事の小国町長が2年の任期満了につき退任し、新たに、運営委員には尾花沢市長、高畠町長、監事に鮭川村長から就任の承諾を得ている。それ以外の方については再任を提案する。

議長が出席者に諮ったところ、特に異議なく原案のとおり承認された。

総会の議事を中断し、直ちに臨時運営委員会が開催され、会長の選任及び副会長の指名が行われた。

総会の議事を再開し、事務局長が柴田洋雄会長と佐藤五郎副会長の再任を報告した。

その他、報告事項として、事務局長が会員の状況を以下のとおり説明した。

・令和5年6月20日現在の会員数は2,935会員（昨年3,038会員）となった。近年の傾向として、高齢化や退職等を理由として毎年100人を超える個人会員の退会が続いている。

・退任する運営委員、監事から次のような挨拶をいただいた。

（天童市長代理の後藤市長公室長補佐）

・当フォーラム運営委員会・総会参加への感謝

・時代がフォーラムについてきた。引き続き活動に参加していきたい。

（小国町長代理の佐藤総務企画課長）

・会議に参加し、様々な活動をしていることに興味を持った。

・環境保全という大切な視点なので、いろいろな形で連携していきたい。

議長が出席者への謝辞を述べ、議事を終了した。

以上をもって全ての議事を終了したので、14時45分に司会が閉会を宣した。
（出席者から拍手）